

SSJK

ふらっと

発行 ならしの地域で生きる会

ならしの地域で生きる会は、
障害のある子も、障害のない子も
共に地域で学び、働き、
生活できることを願い
活動しています。

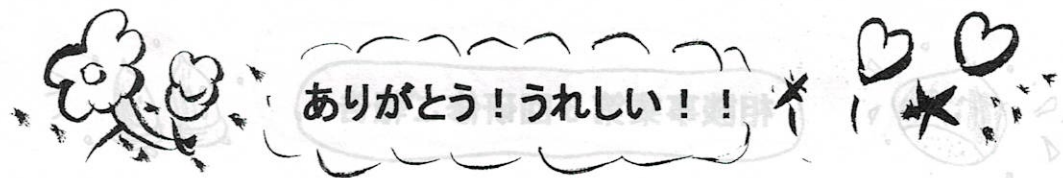
NO.45

もくじ

- 普通学級に通って 2
- 瑞生くんの作品 4
- ありがとう!うれしい! 5

- ちば MD エコネット相談事業第三回研修報告 6
- 新聞記事より 7





美封 本山 市 市 市

拓也は相変わらず、日中は陶芸の作業所「石陶房」に通い、夕方からは習志野高校定時制でたくさんの友達に囲まれ、拓也なりに色々なことを学んでいます。

拓也は今まで、言葉は単語を何語か続けて、自分の要求を表現することしか出来なかったのですが、(例えば「ママ、ちょっと、来て!お願い」という感じ)最近少し変化がありました。

ある日の夕方、食事の支度をしている私の所に拓也がきました。いつものように台所に並んでいる食材をチェックして、メニューを推測していたらしく(笑)「ママ、ミートソース??」と聞いてきました。(台所にはひき肉や玉ねぎなどの野菜がありました)「今日はね、ミートソースじゃなくて“餃子”だよ〜。餃子の皮もあるでしょ?拓也、餃子も好きだよね?」と答えると「餃子…うれ〜しい。ありがと〜」と返してくれました。

感謝の言葉、自分の気持ちを表現できるようになったこと…これはずっと働きかけてきても、なかなかスムーズに口にできなかったことでした。それが、色々な形で人と関わる機会が増えたためでしょうか、「うれしい」や「ありがとう」と言えることが多くなっています。今のところ、家族に対してしか言えないのですが、これが関わって下さる方、みんなに言えるようになると素敵だな…と思います。あせらず、ゆっくりとそれを待ちたいとも思っています。

話せる言葉数もとても増えてきたのですが、発音も少しずつ良くなっています。今までは「ブンデ!」(自分でやるという意味)と言っていたのに「自分で」と言えるようになっていたり、「シーチュ、カール」も「シーツ、換える」と聞き取りやすくなっています。拓也に話しかける時、目と目があって話しが出来ることがほとんどで、また拓也から何か話しかけてくるときも、顔を少しだけ近づけて、こちらの顔を見ながら話すようになっていきます。まだまだ普通に会話…とまではいかないけれど、今のままで充分コミュニケーションはとれています。よく小学校低学年までに言葉の出ない子は、一生そのまま…なんていう方もいらっしゃいますが、そんなことはないなあと思つづく思います。何事も子どもの成長する力を信じて、あきらめずにでもあせらずに、働きかけていくことが大切ではないでしょうか。

「ありがとう」「うれしい」という言葉は、聞いた側の心をととても暖かくしてくれます。“拓、こちらこそありがとう!とてもうれしいよ!”

(大原 由加里)